

# 素数列の考察

さいのせ いちろう  
才野瀬 一郎

## §1. はじめに

小さい方から  $k$  番目の素数を  $p(k) = p_k$  と表す。

$p(k) : 2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19, \dots$

この数列に関して、山本好男(元市立広島工業高等学校)教諭から、主題1のように素数の逆数和は発散するが、素数番目の素数の逆数和は発散するか、あるいは有界であるかとの問題提起を受けた。検討した結果、主題2のように有界であるとの結論を得たので、2つの主題の証明を高校数学で与える。

### [主題1] オイラー

素数の逆数和は発散する。すなわち

$$\sum_{k=1}^m \frac{1}{p(k)} = \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{5} + \frac{1}{7} + \dots + \frac{1}{p_m} \\ \longrightarrow \infty (m \rightarrow \infty)$$

[主題2] 素数番目の素数の逆数和は有界である。すなわち

$$T_m = \sum_{k=1}^m \frac{1}{p(p(k))} \\ = \frac{1}{p(2)} + \frac{1}{p(3)} + \frac{1}{p(5)} + \dots + \frac{1}{p(p(m))} \\ = \frac{1}{3} + \frac{1}{5} + \frac{1}{11} + \dots + \frac{1}{p(p(m))}$$

とおくと、 $T_m$  は有界である。

## §2. 素数の逆数和は発散

[準備] このレポートを通して、自然数  $n$  に対し

$$A_n = 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots + \frac{1}{n}$$

$$B_n = 1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \dots + \frac{1}{n^2}$$

とおく。また、 $n \geq 2$  のとき、 $n$  以下の素数の個数を  $m = \pi(n)$  と表し、 $n$  以下の素数の集合を

$$\{p_1, p_2, \dots, p_m\} \quad \dots \text{(*)}$$

とする。これらの逆数和と2乗の逆数和を

$$S_n = \frac{1}{p_1} + \frac{1}{p_2} + \dots + \frac{1}{p_m}$$

$$C_n = \frac{1}{p_1^2} + \frac{1}{p_2^2} + \dots + \frac{1}{p_m^2}$$

とおく。まず、 $S_n \rightarrow \infty (n \rightarrow \infty)$  を示そう。

[命題1] (1)  $n \geq 1$  のとき、 $B_n < 2$ ,  $C_n < 2$

(2)  $n \geq 1$  のとき、

$$A_n > \log(n+1) > \log n$$

(3)  $0 \leq x \leq \frac{1}{2}$  のとき、

$$\log \frac{1}{1-x} \leq x + x^2$$

[証明] (1) 数列の和を積分で評価する方法により、 $B_n < 2$  が従う。

(チャート式 基礎からの数学Ⅲ+Cワイド版 '13 p.240 重要例題 158)

後半は、 $C_n \leq B_n$  による。

(2) 同様の方法による。

(同 p.240 練習 158(1))

$$(3) f(x) = x + x^2 - \log \frac{1}{1-x} \\ = x + x^2 + \log(1-x)$$

とおく。

$0 \leq x \leq \frac{1}{2}$  のとき、

$$f'(x) = 1 + 2x - \frac{1}{1-x} \\ = \frac{x(1-2x)}{1-x} \geq 0$$

および  $f(0) = 0$  により、この区間で  $f(x) \geq 0$  が得られる。 [終]

[命題2] 自然数  $n$  に対して  $m = \pi(n)$  とする。

(1)  $\log_2 n \leq N$  となる自然数  $N$  をとるとき

$$A_n \leq \left( 1 + \frac{1}{p_1} + \frac{1}{p_1^2} + \dots + \frac{1}{p_1^N} \right)$$

$$\begin{aligned} & \times \left(1 + \frac{1}{p_2} + \frac{1}{p_2^2} + \cdots + \frac{1}{p_2^N}\right) \\ & \times \cdots \\ & \times \left(1 + \frac{1}{p_m} + \frac{1}{p_m^2} + \cdots + \frac{1}{p_m^N}\right) \end{aligned}$$

$$(2) \log(A_n) \leq \sum_{k=1}^m \log\left(\frac{1}{1 - \frac{1}{p_k}}\right)$$

**証明** (1) 右辺を展開すると、次のような  $\frac{1}{k}$  の総和となる。

$k$  は、 $k = p_1^{e_1} p_2^{e_2} \cdots p_m^{e_m}$  の形であり、ここで、各  $e_j$  ( $1 \leq j \leq m$ ) は  $e_j = 0, 1, 2, \dots, N$  の範囲を動く。

(\*)と  $n \leq 2^N$  から、このような  $k$  は  $n$  以下の自然数を 1 回ずつとる。すると、右辺を展開した中に、 $A_n$  の各項  $\frac{1}{k}$  ( $1 \leq k \leq n$ ) が 1 回ずつ現れるので、 $A_n \leq$ (右辺) である。

(2) 等比数列の和の公式により、 $p \geq 2$  のとき

$$1 + \frac{1}{p} + \frac{1}{p^2} + \cdots + \frac{1}{p^N} < \frac{1}{1 - \frac{1}{p}}$$

さらに(1)により

$$A_n \leq \frac{1}{1 - \frac{1}{p_1}} \times \frac{1}{1 - \frac{1}{p_2}} \times \cdots \times \frac{1}{1 - \frac{1}{p_m}}$$

である。両辺の自然対数をとると

$$\log(A_n) \leq \sum_{k=1}^m \log\left(\frac{1}{1 - \frac{1}{p_k}}\right) \quad \text{終}$$

**【命題 3】** (1)  $n \geq 2$  のとき、 $S_n > \log(\log n) - 2$

(2) 素数は無限個存在する。

(3) 主題 1 が成り立つ。

**証明** (1)  $\log(\log n)$

$$\leq \log(A_n) \quad (\because \text{命題 1(2)})$$

$$\leq \sum_{k=1}^m \log\left(\frac{1}{1 - \frac{1}{p_k}}\right) \quad (\because \text{命題 2(2)})$$

$$\leq \sum_{k=1}^m \left(\frac{1}{p_k} + \frac{1}{p_k^2}\right) \quad (\because \text{命題 1(3)})$$

$$= S_n + C_n$$

$$< S_n + 2 \quad (\because \text{命題 1(1)})$$

ゆえに、 $S_n > \log(\log n) - 2$

(2)  $n \rightarrow \infty$  のとき  $\log n \rightarrow \infty$

したがって、 $\log(\log n) \rightarrow \infty$  となり、 $S_n \rightarrow \infty$  が成り立つ。もし、素数が有限個ならば  $S_n$  は有界となるから、この事実は素数が無限に存在することを示す。

(3)  $m \rightarrow \infty$  のとき  $p(m) \rightarrow \infty$  ( $\because$  (2))

に注意すると

$$S_{p(m)} = \sum_{k=1}^m \frac{1}{p(k)}$$

$$> \log(\log p(m)) - 2 \rightarrow +\infty \quad (m \rightarrow \infty) \quad \text{終}$$

### §3. 素数番目の素数の逆数和は有界

続いて、主題 2 を示すための準備をする。

**【命題 4】** (1)  $n \geq 2$  のとき

$$\pi(2n) - \pi(n) \leq \log 2 \times \frac{2n}{\log n}$$

(2)  $k \geq 3$  のとき

$$\pi(2^k) - \pi(2^{k-1}) \leq 6 \left( \frac{2^k}{k} - \frac{2^{k-1}}{k-1} \right)$$

(3) ある正の定数  $A$  が存在して、

$$n \geq 2 \text{ のとき } \pi(n) \leq A \frac{n}{\log n} \text{ が成り立つ。}$$

**証明** (1) 二項定理により

$$2^{2n} = \sum_{k=0}^{2n} {}_{2n}C_k \geq {}_{2n}C_n = \frac{(2n)!}{n! \times n!}$$

であるが、ここで  $n < p \leq 2n$  となる任意の素数  $p$  について、 $n!$  は  $p$  を素因数にもたないで、 $n! \times n!$  も  $p$  を素因数にもたない。

他方、 $(2n)!$  は  $p$  を素因数にもつから、 ${}_{2n}C_n$  は各  $p$  を素因数にもつことになり、

$$\begin{aligned} 2^{2n} \geq {}_{2n}C_n &= (\text{自然数}) \times \prod p \geq \prod p \\ & \quad \begin{matrix} n < p \leq 2n & n < p \leq 2n \\ p \text{ は素数} & p \text{ は素数} \end{matrix} \\ & \geq \prod n \\ & \quad \begin{matrix} n < p \leq 2n \\ p \text{ は素数} \end{matrix} \\ & = n^{\pi(2n) - \pi(n)} \end{aligned}$$

となる。両辺の自然対数をとると、

$$2n \cdot \log 2 \geq \{\pi(2n) - \pi(n)\} \log n$$

$$\therefore \pi(2n) - \pi(n) \leq \log 2 \times \frac{2n}{\log n}$$

(2) まず、 $k \geq 3$  のとき

$$\frac{2^k}{k-1} \leq 6 \left( \frac{2^k}{k} - \frac{2^{k-1}}{k-1} \right) \quad \cdots \text{①}$$

という不等式を準備しておく。

(両辺に  $\frac{k(k-1)}{2^{k-1}}$  を掛けると簡単にわかる。)

不等式 (1) において、 $n=2^{k-1}$  ( $k \geq 3$ ) を代入して  
① を使うと

$$\begin{aligned} \pi(2^k) - \pi(2^{k-1}) &\leq \log 2 \times \frac{2^k}{\log 2^{k-1}} \\ &= \frac{2^k}{k-1} \leq 6 \left( \frac{2^k}{k} - \frac{2^{k-1}}{k-1} \right) \end{aligned}$$

(3)  $m \geq 3$  のとき、不等式 (2) において  
 $k=3, 4, \dots, m$  として和をとると

$$\sum_{k=3}^m \{ \pi(2^k) - \pi(2^{k-1}) \} \leq \sum_{k=3}^m 6 \left( \frac{2^k}{k} - \frac{2^{k-1}}{k-1} \right)$$

$$\therefore \pi(2^m) - \pi(2^2) \leq 6 \times \frac{2^m}{m} - 12$$

ここで、 $\pi(2^2) = 2 \leq 12$  より、

$$m \geq 3 \text{ のとき } \pi(2^m) \leq 6 \times \frac{2^m}{m} \text{ が従う。}$$

以上から、 $n \geq 8$  のとき、 $2^{m-1} < n \leq 2^m$  となる自然数  $m$  ( $\geq 3$ ) をとれば、 $2^m < 2n$ ,  $\log_2 n \leq m$  より

$$\begin{aligned} \pi(n) &\leq \pi(2^m) \leq 6 \times \frac{2^m}{m} \leq 6 \times \frac{2n}{\log_2 n} \\ &= 12 \cdot \log 2 \times \frac{n}{\log n} \end{aligned}$$

したがって、定数  $A$  を十分大きくとれば、 $n \geq 2$  のときにも  $\pi(n) \leq A \frac{n}{\log n}$  が成り立つ。終

[命題 5] ある正の定数  $B$  が存在して、  
 $m \geq 1$  のとき  $p(m) \geq Bm \cdot \log m$   
 $p(p(m)) \geq Bm \cdot (\log m)^2$   
が成り立つ。

[証明]  $n=p(m)$  とすると、 $n \geq 2$  かつ  $m=\pi(n)$  である。関数  $f(x)=x \cdot \log x$  は  $x \geq 1$  で増加するから、命題 4(3) を満たす  $A$  をとれば

$$f\left(A \frac{n}{\log n}\right) \geq f(\pi(n)) = f(m) = m \cdot \log m \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

他方、 $f\left(A \frac{n}{\log n}\right) = A \frac{n}{\log n} \cdot \log\left(A \frac{n}{\log n}\right)$  において、 $A \geq e$  として良い ( $A$  は十分大きい) から  $n \geq A$  のとき  $A \frac{n}{\log n} \leq n \times \frac{n}{1} = n^2$  より

$$\begin{aligned} f\left(A \frac{n}{\log n}\right) &\leq A \frac{n}{\log n} \cdot \log(n^2) \\ &= 2A \cdot n = 2A \cdot p(m) \quad \dots\dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

①, ② によれば、

$$p(m) \geq A \text{ のとき } p(m) \geq \frac{1}{2A} m \cdot \log m$$

以上から、十分小さな正の定数  $B$  を選ぶことにより、 $m \geq 1$  のときにも前半の不等式が成り立つことがわかる。

次に、後半の不等式を示す。前半の不等式を繰り返し使って

$$\begin{aligned} p(p(m)) &\geq B \cdot p(m) \cdot \log p(m) \\ &\geq B \cdot Bm \cdot \log m \cdot \log(Bm \cdot \log m) \end{aligned}$$

したがって、 $m \geq B^{-2}$  かつ  $m \geq e$  のとき、

$B \cdot m \cdot \log m \geq m^{-\frac{1}{2}} \cdot m \cdot 1 = m^{\frac{1}{2}}$  であるから、このとき

$$\begin{aligned} p(p(m)) &\geq B^2 m \cdot \log m \cdot \log(m^{\frac{1}{2}}) \\ &= \frac{1}{2} B^2 m \cdot (\log m)^2 \end{aligned}$$

定数  $B$  を取り直せば、 $m \geq 1$  においても後半の不等式が成り立つ。終

[命題 6] 主題 2 が成り立つ。

[証明] 関数  $\frac{1}{x \cdot (\log x)^2}$  が  $x > 1$  で減少することと命題 5 により、 $m \geq 3$  のとき

$$\begin{aligned} T_m &= \frac{1}{p(p(1))} + \frac{1}{p(p(2))} + \sum_{k=3}^m \frac{1}{p(p(k))} \\ &\leq \frac{1}{3} + \frac{1}{5} + \sum_{k=3}^m \frac{1}{Bk \cdot (\log k)^2} \\ &\leq \frac{8}{15} + \sum_{k=3}^m \int_{k-1}^k \frac{1}{Bx \cdot (\log x)^2} dx \\ &= \frac{8}{15} + \int_2^m \frac{1}{Bx \cdot (\log x)^2} dx \\ &= \frac{8}{15} + \frac{1}{B} \left[ \frac{-1}{\log x} \right]_2^m \\ &= \frac{8}{15} + \frac{1}{B \cdot \log 2} - \frac{1}{B \cdot \log m} \\ &< \frac{8}{15} + \frac{1}{B \cdot \log 2} = (\text{定数}) \end{aligned}$$

となり、結論が得られる。終

《参考文献》

- [1] 黒川信重 オイラー探検 シュプリンガー・ジャパン pp.22-29
- [2] 一松信 「 $n$  と  $2n$  の間に素数がある」 数研通信 No.70 pp.2-5 数研出版
- [3] チャート式基礎からの数学Ⅲ+C ワイド版 '13 数研出版

(広島県 広島市立基町高等学校)